

月刊

利根日石新聞

2009年11月1日

創刊

平成23年4月号

第000018号

発行
利根日石株式会社
本社販売管理課
TEL:0278-24-1635
FAX:0278-23-7980

今回の3月11日、東北地方太平洋沖地震や、十数メートルの津波で大勢の方の命が奪われてしまいました。

皆様に謹んで「お悔みを申し上げますと共に、ご冥福をお祈りいたします。多くの避難生活を送っている皆様におかれましても、お見舞申し上げます。今だに行方不明の方もたくさんいらっしゃるとの事で心が痛みます。

避難所で「そくなられたら人、車の中でそくなってしまった人、あかちゃんのオムツがなくて、1日バナナ1本と水1本だけの食事や、冷たいおにぎりやパン1ヶだけと聞いているだけで悲しくなります。

私事ですが、震災前に岩手の旅館から1年前に宿泊したおれにと、生のめがぶとわかめが家に届きました。おいしい新鮮な魚がたくさんあるとてもすばらしい場所でした。

昨年春に泊まった福島県寄りの北茨城の温泉地も、大変な津波だったようでとても悲しいです。

ある人は地震の2日後に岩手へ行く予定の方もいて、もしその時行っていたらと思うと言葉がありません。

生きている私たちに出来る事、待機電力を節電したり、支援金を寄付したり、オムツやペットボトルの水を寄付したり、小さい事の積みかさねが大切だと、そして必要だと思いました。

また、地震後、全く油の入荷がなく、お客様に大変なご不便をさせてしまった事を、じゆりお詫び申し上げます。定期配送のお客様をはじめ、灯油のご注文のお客様。灯油がなく配達できない事を伝えると、「こんな状態だもの、いいわよ! 節約して使うから。」とおっしゃってくださいましたお客様。「カイロ張って、節約するから、大丈夫!」とおっしゃってくださいましたお客様。どんなに助けられたことか!! 心暖い言葉をどうもありがとうございました! そして、電話等で何分初めての事とはいえ、不手際ありました事もお詫び申し上げます。 今後は、お客様が安心できるように、電話対応等、心がけていきたいと思います。



ちなみに大地震後、続いた余震に子供達は毎回ビクビクして、「外に出よう!」と慌ててましたが、最近はやっと落ち着いて来た様子。 とみいさん家の「はなちゃん」(シバ犬)は「クゥ~! クゥ~!」と搖れるたびに泣いていたそうですが、

3月11日に発生しました東北地方太平洋沖地震により被災した全ての方々に心よりお見舞い申し上げます。

1万人以上の尊い命が奪われ、行方不明者も1万を超える、なお増え続けそうです。地震発生から20日ちかく経過していますが、未だに被害の全貌が見えないほどの未曾有の大災害を前に、ただ呆然とするばかりです。今はとにかく一人で多くの方がご無事であることを、また避難されている多くの方々が一日も早く心休まるよう祈るばかりです。

東北地方で甚大な被害をもたらせた大震災の影響は、関東地方にも大きな影響をもたらせていました。おもて面でもお詫びさせて頂いた通り、発生直後に石油製品の入荷がストップ、翌週から入荷は始まるものの、極端な入荷不足に陥り、皆様方に多大なるご迷惑をお掛けてしまいました。誠に申し訳ありませんでした。

これは、私どもの仕入先であるJX日鉱日石エネルギーが操業している製油所のうち、仙台、鹿島、根岸の3製油所が地震の影響で精製が停止したことによるものです。加えて、東北地方に優先的に移送するため、極端な入荷不足に陥り、スタンドでの製品が極端に不足してしまいました。現在は根岸製油所が操業を再開したこともあり、前年とほぼ同程度の入荷量まで回復しつつあります。

LPGにつきましては、石油製品に比べ被害が小さかったことや備蓄量が多かったことなどにより、供給に大きな問題は生じていません。但し、ガス器具（ガステーブルや給湯機など）は部品メーカーが東北地方にあった製品なども多く、入荷に大きな遅れが生じているメーカーもございます。一方、太陽光発電や家庭用燃料電池「エネファーム」などの新エネルギー機器は部品メーカーにも被害は殆どなく、供給に問題は生じていません。

地域に目を向けると、さらに大きな問題が発生しております。

伊勢崎のほうれん草などから規定値を超える放射性物質が検出されたことにより、政府は県内産のほうれん草及びかき菜に対して出荷自粛を要請しました。昭和村を始め利根沼田地域でも多くの方々が栽培に従事されていますが、これからという時期の出来事にやり切れない気持ちではないでしょうか。

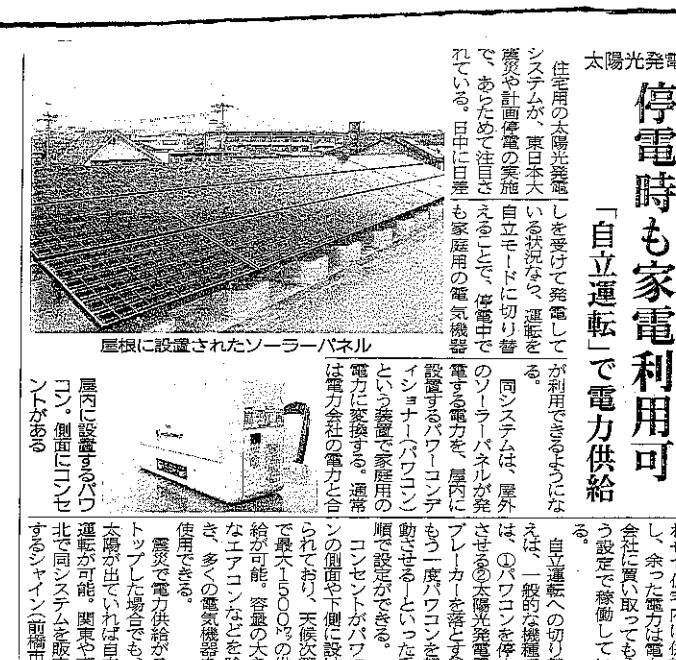
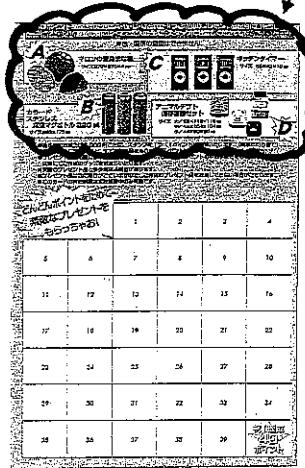
スキー場や旅館など観光業も相次ぐキャンセルによって大きな被害が出ています。合板を始めとする建設資材の不足によって建設業も大きな被害が出ていますし、紙の不足によって書籍の入荷が遅れているという話もあります。地域内で影響の無い産業がないといっても良いくらい地域の中でも地震の影響は計り知れません。

加えて、片品村やみなかみ町など被災者の方々の受け入れを行っている地域もございます。被災地に赴き支援活動をされる方々は勿論ですが、身近なところでも、被災された方々のために昼夜を問わず奔走されるボランティアの方々には頭の下がる思いです。

石油製品の入荷が落ち着きつつあるので、私たちも出来ることから小さな支援を始めたいと思います。スタンドの待合室に募金箱を用意しました。また、給油のお客様にお配りする4月からのスタンプカードには通常の景品に一口500円の義捐金を加えました。夜間の営業時間は当面短縮し、営業時間中はサインポールなどの照明を節電いたします。

ご理解とご協力をお願い申しあげます。

通常4つの景品からお選び頂いています
4月からこしに加えて1口500円の義捐金を
お選び頂けます。



利根沼田地域は昭和村を除き、
計画停電の範囲に入っていますが、市外の
お客様には活用頂いております。↑

平成23年3月30日付
(上毛新聞朝刊より)